

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

第7回

かわさき車窓物語

新駅誕生!! 小田栄駅

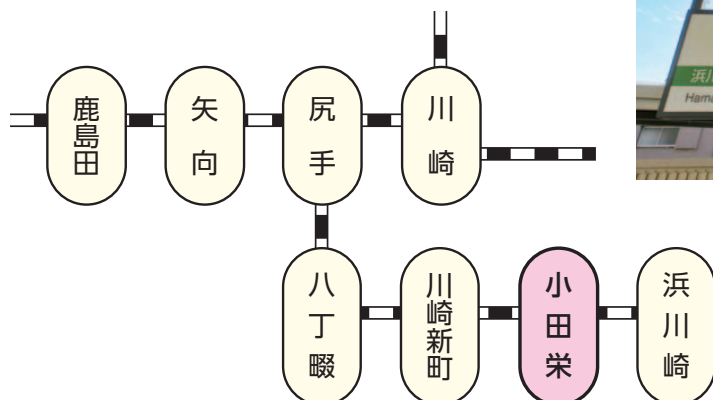
南武支線(尻手^{しって}～浜川崎^{はまかわさき}間4.1km)はこれまで4駅で運行されていましたが、この度の「小田栄」駅を加え5駅となりました。小田栄地区にはかつて川崎市電の「小田栄町」停留所がありましたが、昭和44年3月の市電廃止後は川崎駅まで約15分の路線バスが唯一の公共交通機関となっていました。川崎新町^{かわさきしんまち}～浜川崎間は他の2区間分に値する2.1kmあったため、今回の駅新設による利便性の向上には大きなものがあります。近年の人口急増に際し川崎市とJRが共同で新駅設置に取り組んだ成果と言えましょう(「南武支線」は旅客案内上の呼称で、「浜川崎支線」の通称もあります)。

新駅の近辺には成就院^{じょうじゅいん}や円能院^{えんのういん}等の古刹や「姥ヶ森弁財天」^{うばがもり}伝説が今に伝わる「姥ヶ森公園」^{うばがもり}等の史跡も多いので、散策してみたいかたでしょうか。

このコーナーでは3号に1回のペースで「川崎市内の乗り物・交通機関」をキーワードに様々な話題を取り上げてご紹介しています。第7回は、平成28年3月26日に開業したJR南武線「南武支線」の「小田栄」駅を取り上げます。

*JR南武線

南武線の起源は、大正8年に多摩川の砂利を臨海工業地帯に運ぶことを目的に計画された「多摩川砂利鉄道」です。私鉄会社発足時の名称が「南武鉄道」で、その後の財界不況時に浅野財閥系の資本が加わり、昭和2年3月に川崎～登戸間と矢向～川崎河岸間で開業しました。昭和4年12月の川崎～立川間と、同5年3月の尻手～浜川崎間の全通により、同じく浅野系の「青梅鉄道」「五日市鉄道」「鶴見臨港鉄道」を加えた奥多摩～臨海部の鉄道輸送路線が直結し、旅客輸送とともに産業上の役割が一挙に高まりました。その後も京浜地区の埋め立て造成と原料輸送に密接な関係を持ち続け、昭和19年4月、戦時下の国策により強制買収され「南武線」となりました。



ご参加ありがとうございました

平成27年度川崎市文化賞受賞記念講演会(兼図書館職員全体研修)

「地域を調べる、川崎を知る」

平成28年3月22日午後2時より、地域史研究家の長島保先生をお迎えして、講演会「地域を調べる、川崎を知る」を開催しました。この講演会は、当初、図書館職員全体研修として企画しておりましたが、長島先生が平成27年度の「川崎市文化賞」を受賞されたことから、是非市民の方にもお話を聞いていただきたいということで開催させていただくことになりました。当日は、56名(うち職員26名)の方にご参加いただきました。

長島先生には、「正確に知る」という姿勢で、自らの足で調査された事柄を、写真などもご紹介いただきながら、時にユーモアを交えてお話しいただきました。受講された方からは、「川崎に住んでいながら、知らないことばかりだった。」「地元の歴史を知ることができてよかった。」との感想をいただきました。職員からは、「何気なく通り過ぎている場所にも歴史が積み重ねられていて、それを文献など、わかるものに残していないと、貴重な歴史が消えて行ってしまう。そういう意味でも、公共図書館で郷土資料を収集・保存し、有効に提供していくことは重要な任務だと改めて気づきました。」という声が上がりました。

「川崎市文化賞」を受賞されて、「やっと川崎市民として認められたように思える。」とおっしゃっていた長島先生。今後のますますのご活躍をお祈り申し上げます。



第29回

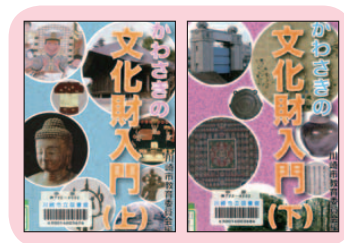
このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。今回は、川崎の文化財に関する本をご紹介します。



A:『かわさきの文化財入門 上・下』

川崎市教育委員会生涯学習部文化財課／編集
川崎市教育委員会 2013

平成25年4月時点での川崎市内の国・県・市の指定および登録文化財等についてカラー写真付きで紹介されています。上巻は建造物・彫刻・工芸品・民俗文化財、下巻は絵画・古文書・考古資料・史跡・天然記念物について、所在地・規模・年代などの記述と説明があります。



A

B:『川崎市文化財調査集録』 川崎市教育委員会 1965～

1965年の第1集発行以来、ほぼ毎年1冊ずつ刊行されています。2016年3月発行の第50集が最新になります。個々の文化財についての詳細な調査・研究・保存修理・発掘の報告書になっています。上記の「かわさきの文化財入門」で物足りない方におすすめです。

C:『閑話雑記』 川崎市市民局広報部広報課／編集 川崎市 1977

昭和50年に川崎市が「声のひろば」というラジオ番組をもちました。そこで放送された話を中心に川崎の歴史・文化・くらしなどを1ページに1話ずつ紹介しています。いくつか目次から挙げてみると、「川崎の市電」「ハリスの大師参詣」「多摩川の鮎漁」「万葉集にみる川崎」などのタイトルがあります。このほか、昭和17年に川崎市で発掘され、現在は慶應義塾大学所蔵で東京国立博物館に寄託されている、日本陶磁器史上きわめて有名な平安時代末期のものと思われる国宝の「秋草文壺」がなぜ川崎市の所蔵品にならなかったのかの記事も載っています。

D:『日吉加瀬古墳』(復刻) 三田史学会／著 名著普及会 1984

秋草文壺の発掘時の様子や壺の文様の拓本などの記載があります。



B



おめでとうございます!

神奈川県図書館協会

功労者表彰の受賞団体を紹介します

平成
28
年度

神奈川県図書館協会から、高津図書館橘分館の読み聞かせボランティアグループ「どんぐり」が功労者として表彰されました。長年にわたり図書館活動を地域から支えていただいたことに感謝申し上げます。受賞団体の「どんぐり」の皆さんからコメントをいただきましたのでご紹介します。今後のさらなるご活躍を期待しています。

読み聞かせボランティアグループ どんぐり



プラザ橘でのボランティア講座終了後に発足して早22年。おもに3歳から就学前の子どもさんを対象にしたおはなし会を続けています。地域の保育園、わくわくプラザ、乳幼児を対象としたおはなし会、また老人ホームへも出向いております。

小さい子どもさんからお年寄りにまで広く、絵本のすばらしさや楽しさを、これからもお伝えできるよう活動を続けていきたいと思っています。

フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」



わが街・川崎のJ1サッカークラブ「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第19回は、井川祐輔選手が選ぶ1冊を紹介します。

『かおかお どんなかお』 柳原良平／作・絵 こぐま社 1988年

《内容紹介》 最初に丸の中に目がふたつと鼻がひとつと口がひとつで顔の出来上がり。それから、ページをめくると、その顔がいろんな表情をしていきます。すっぱい顔、悲しい顔、うれしい顔などなど、いろんな「顔」が出てきます。



*** 井川祐輔選手より ***

奥さんがチョイスしてくれた本で、子どもも気に入っています。単純だけど大切なことが学べます。「シンプルイズベスト」ですね。表情豊かな人というのは万国共通で伝わるもの。自分の感情が表現できる子になってほしいという思いで読んでいます。なかなか現代社会ではパソコン中心の生活だったりして、人とのふれあいやコミュニケーションが少なくなりがちなので、そのなかでボディランゲージだったり、顔の表情が大事になってきます。この本はそうした表情がたくさん出てくるいい絵本です。

KAWASAKI
Frontale



【DF 4 井川祐輔選手】

クラブ在籍11年目。鋭い読みと厳しいチェックで最終ラインの砦となる経験豊富なセンターバック。

図書館長

お薦めの一冊



このコーナーでは、川崎市立図書館の館長がお薦めする1冊をご紹介します。

麻生図書館長 小山 秀一

■サリンジャー「ナイン・ストーリーズ」

お薦めの一冊と言われ自宅の本棚を眺めていたら、学生時代に読んだサリンジャーの短編集「ナイン・ストーリーズ」が目にとまりました。クラスメイトに部員が少なくて困っていると誘われてクラブに顔を出し、その日たまたま美人が部室にいたため入部してしまった（後で部員の友人と判明）英米文学研究会という部活で取り上げた作品です。

サリンジャーは「ライ麦畑でつかまえて」が大変有名ですが、この短編集も高い評価を得ているものです。ただ、初めて読むと難解でよくわからないと思われる方もいるかもしれませんが、9つの短編の中でも、「エズミに捧ぐ」や「小舟のほとりで」は比較的なじみやすいものではないかと思います。特

に、その夜にはノルマンディ上陸作戦に向けて出発する若い兵士と聖歌隊の少女とその弟との雨の日の出会いと、その後の戦闘で傷ついた兵士が姉弟からの手紙に再生を見出す姿を描いた「エズミに捧ぐ」はお薦めです。この物語も短編にもかかわらず2部構成になっていて、主人公の表記も変わるなど複雑なところもありますが、サリンジャーの優しさを感じられて心惹かれる作品です。

この物語の中で少女の弟が面白いなぞなぞも出していますから、興味のある方はぜひ読んでみてください。

■麻生図書館

小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩5分の図書館として、多くの方々にご利用いただいております。子ども向けのおはなし会はもちろん、大人のためのおはなし会や、近隣の大学との協働事業も行うなど、多くのみなさまに読書に親しんでもらえるよう、イベントを企画しています。皆さんのお越しをお待ちしております。



『ナイン・ストーリーズ』
サリンジャー／著
野崎 孝／訳
新潮文庫刊

川崎市立図書館 読書普及講演会

「昔話はおもしろい」

今年度の講演会は、昔話研究の第一人者である小澤俊夫氏をお迎えして、昔話の魅力についてお話しいたします。ご期待ください。

- 講師** 小澤俊夫氏（小澤昔ばなし研究所所長）
- 日時** 10月6日（木） 午後6時30分～8時30分
- 会場** 中原市民館 多目的ホール（武蔵小杉駅下車）
- 定員** 300名（無料）

申込方法の詳細は、9月頃に図書館ホームページ・チラシ等でご案内いたします。



編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橋分館(788-1531)
幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅覧所(946-3271)